

公明党 品川総支部ニュース

2013 SPRING



伊藤こういち 都議会議員(公明党品川総支部長)に聞く

命を守る!防災プラン

2面・3面

—しながわ—

- 1 パートなどの短時間勤務でも預けやすい保育園を拡充します!
- 2 高校3年生までの入院費用を助成します!
- 3 子どものインフルエンザやロタウイルスなどの予防接種費用を無料化します!
- 4 助産師などの専門スタッフによる産後ケアセンターの設置をめざします!
- 5 不妊治療費用への助成をさらに拡充します!

子どもは未来を担う宝です。公明党は児童手当の拡充をはじめ、出産育児一時金の充実、不妊治療への助成、奨学金の拡充など、子育て支援政策を一貫して、粘り強く進めてきました。現在、働く女性が増え、子育てのライフスタイルも大きく変化し、妊娠・出産、仕事と育児の両立など、子どもが成人するまでの期間を切れ目なく支援することが求められています。

公明党品川総支部(伊藤こういち支部長)は、こうした現場からの声を受け、子育て世代を応援し、負担を軽減する支援策として「子育て支援ビジョン」をまとめました。安心して子育てできる品川をつくるため、全力をあげてまいります!

子育て支援の第一の視点は、働く女性への支援です。保護者がパートなどの短時間勤務の

公明党が推進する「子育て支援ビジョン」女性と子どもを命を守ります!



場合には、保育園の入園を希望しても入れないケースが増えています。そこでパートなどの短時間勤務でも入園しやすい保育園を拡充します。

第二に、高校生の入院費用の助成です。公明党の主張により、品川区では現在中学三年生までの医療費を所得にかかわらず全額助成を実施しています。今後は、さらに高校三年生までの入院費用の助成を推進します。

第三に、予防接種費用の無料化です。インフルエンザの発症や重症化を予防するワクチン接種は、費用がかかり、接種化するための予算が盛り込まれませんでした。

これにより、これまで公明党が一貫して主張してきた**3ワクチンの無料化が実現**できます。

なかでも子宮頸がんは、予防ワクチンと検診ではほぼ100%予防できる唯一のがんです。そのため公明党は、子宮頸がん撲滅のため、検診を受けやすい環境づくり

防するワクチン接種には、費用がかかり家計の負担となります。そこで、安心して子育てできるようにインフルエンザやロタウイルスなど予防接種費用の無料化をめざします。

第四に、子育てママへの支援です。初めての子育てに緊張と不安がつり、産後うつや育児不安を引き起こすケースが増えています。そこで、助産師などの専門スタッフが、産後のお母さんの相談にのり、心と体をケアし、赤ちゃんの健やかな成長を支援する産後ケアセンターの設置をめざします。

第五に、不妊治療への支援です。公明党の推進で特定不妊治療への助成は、現在、二回十五万円を年二回まで、「通算五年間」になりました。さらに拡充し、高額な不妊治療の負担軽減をめざします。

公明党品川総支部が全国へ発信!品川区は、ヒブワクチン接種助成を二三区へ、さらに早く踏み切りました。それは、出産直後のお母さんが、我が子の命を守るために、「ヒブワクチン」の接種ができ、費用はいくらなのかと、公明党の品川区議会議員に相談したのが始まりです。調査により、輸入ワクチンが、一部医療機関でしか接種できないことや費用は三万円以上もかかることが分かり、区議会公明党は接種費用の助成制度を議会提案。しかし、区は予算がないなど消極的な答えしか返ってきませんでした。

一人の母親の声を政治に生かす!!区議から都議へ!公明党のネットワークを活かした連携で実現!

そこで、区議から伊藤こういち都議会議員に相談すると、「都の補助金から捻出できるのでは」と事態は急展開。ワクチン接種を求める医療現場からの後押しもあり、再度、助成制度の創設を品川区に要望。その結果、二〇〇九年ヒブワクチン予防接種の助成制度が実現しました。こうして区議と都議の公明党のネットワークにより実現した助成制度は、全国の自治体へと波動。一人の母親の声を政治に生かし、ワクチン後進国・日本を動かしたのでした。

区議会公明党の提案が実現へ

品川区平成25年度予算案で

高齢者支援、若者の雇用、いじめ対策が大きく前進!

特別養護老人ホームを3カ所増設へ

区議会公明党は、特養ホームの待機者解消に向け、小さな敷地でも建設可能な小規模特養やより多くのベッドが確保できるための工夫を提案するなど、特養ホームの増設を繰り返し訴えてきました。その結果、八潮特養ホームが一昨年開設し、11年振りに特養ホームが開設されました。新年度ではさらに3カ所増設するための予算が盛り込まれました。

まず、**杜松小学校跡**には、29床が整備されます。特養の他にも、小規模多機能介護施設や地域交流施設も併設され、来年の開設が予定されています。また、2015年に開設予定の**平塚橋会館跡**には100床が整備され、区営住宅やシルバーセンターなども併設されます。さらに、2016年には**上大崎3丁目旧みやこ荘跡**に特養ホームが建設される予定です。

高齢者支援の充実を目指します
特養ホームは、自宅で介護が困難になった高齢者が、24時間安心して

介護サービスを受けられる施設ですが、希望者が多いため待機者は毎年数百名となり、増設が求められていました。区議会公明党は、今後とも、特養ホームのさらなる増設や区内に1カ所しかない老人保健施設(老健)やグループホームの推進、在宅介護の充実や認知症対策など、高齢者支援に取り組みます。




▲特養ホーム杜松小跡のイメージ
▶特養ホーム平塚橋のイメージ

道路の陥没を防ぐ!道路下空洞調査

東日本大震災では、道路下の空洞が原因で道路が陥没するケースが数多く報告されました。震災時、道路が陥没した場合、傷病者を乗せた緊急車両が病院などにたどり着くことができなくなるなど、人命救助に大きく支障をきたすことが予想されます。目に見えない都市災害対策の盲点と言えます。区議会公明党は、この空洞問題を重視し、昨年9月、「区内道路の

陥没事故防止のための空洞調査を求める要望書」を品川区長に提出し、早急の実施するよう要請しました。その結果、25年度予算案に、「道路下空洞調査」と「空洞の補修工事」が盛り込まれ、道路の安全が確保されます。



いじめは絶対に許さない! スクールソーシャルワーカーを配置

品川区では、これまで各小中学校に配置されていたスクールカウンセラーに加えて、新たに設置する「いじめ対策チーム」に、**スクールソーシャルワーカー**が配置されます。スクールソーシャルワーカーは、社会福祉士などの資格を持ち、いじめや不登校などの問題に対して、子どもの側から当事者や専門機関との間に立ち、問題解決に向け調整や仲介を行います。

“いじめをなくしたい、いじめは絶対に許さない”...子どもや保護者、学校など区民みんなの願いです。この思いを受け、区議会公明党は議会質問などにおいてスクールソーシャルワーカーを積極的に導入するよう区に対し繰り返し要望してきました。



若者の雇用を創出!若者就職活動サポート事業を実施

区議会公明党は、これまで雇用のミスマッチの解消や情報提供の充実など、若者の雇用環境の改善を訴えてまいりました。そして、品川区では、新年度、厳しい若者の雇用環境の改善のため、平成24年度に開設した「品川区就業センター」に相談コーナーを設置し、「若者就職活動サポート事業」を実施します。

若者の雇用を応援する3つのサービス

- (1)セミナー 面接対策などを学ぶセミナーを開催。
- (2)キャリアカウンセリング 就職活動や仕事、将来の悩みに答える。
- (3)若者就業体験 区内中小企業での就業体験を実施し、体験先での正規雇用を促します。また、体験等期間中の給料が支払われます。



公明党品川総支部の議員紹介

都議会議員(総支部長) 伊藤 こういち	区議会議員 若林 ひろき	区議会議員 たけうち 忍
区議会議員 山元 けい子	区議会議員 浅野 ひろゆき	区議会議員 こんの 孝子
区議会議員 塚本 よしひろ	区議会議員 あくつ 広王	区議会議員 つる 伸一郎

皆さまの声を聞かせください。お気軽に、ご意見・ご要望をお寄せください。

電話 03(5742)6817 FAX 03(3774)3366 Eメール info@shinagawa-komei.org

実現力が第一！ 公明党品川総支部の伊藤こういち都議と 区議が連携して実現しました！

災害対策

- 緊急地震速報システムの設置を推進
- 防災ラジオの普及
- 海拔表示板の設置
- 区内の全小・中学校校舎の耐震化を推進
- 公共施設の新構造部材（天井など）の耐震化を推進
- 災害時などに、障がい者などの要援護者が周囲に支援してもらえるように「ヘルプカード」を実現
- 一時待機施設、支援ステーションの拡充など帰宅困難者対策を推進
- 家族との安否確認通信手段の拡充

子どもの目線

- ヒブワクチン等のワクチン接種費用の助成を実現
- 子どもの食物アレルギー対策のため、都のガイドラインを実現
- 市街地、駅などの防犯カメラの設置を拡充
- 特別支援教室を必要な全小学校に拡充
- 「チャイルドビジョン」（幼児視野体験メガネ）、子どもの事故防止学習ソフトを普及
- いじめ相談ホットラインの拡充

若者を応援

- 合同就職面接会、緊急就職サポート事業を推進
- 若者総合相談窓口の普及
「若ナビ〜ココロのモヤモヤスッキリ〜」の拡充（メール、電話に続き、面談による相談も開始）
- 若年者雇用促進のため「東京しごとセンター」の機能を拡充

高齢者支援

- ケア付き住宅、特別養護老人ホームの設置促進
- 高齢者住宅などの「住宅用火災警報器」の設置促進
- 高齢者世帯の見守りと買い物弱者支援を推進
- 肺炎球菌ワクチンの接種助成事業を推進

我が子を守る一人の母の心が、伊藤こういち都議会議員を通して動かされ、多くの障がい者への支援となる災害対策が実現しました。

◆ 昨年十月末、ついに東京都はヘルプカードの標準様式を定めたガイドラインを策定し、今年度から二〇二四年度まで標準様式を活用してカードを製作する区市町村に対し、年間二五〇万円を上限として経費を全額補助することを発表しました。

◆ 一昨年の東日本大震災では、混乱の中、外出先で周囲に気付かれず、自力で帰宅できなかった障がい者は少なく、懸念が現実化しました。

◆ ヘルプカードはコミュニケーションに困難のある障がい者が携帯し、災害時の緊急連絡先や周囲に支援してほしい内容が記載されているものです。

◆ 三年前、伊藤こういち都議会議員（総支部長）は自閉症障がいの子どもの母親から、我が子のために作成した手製のヘルプカードを見せて頂き、要望を受けました。

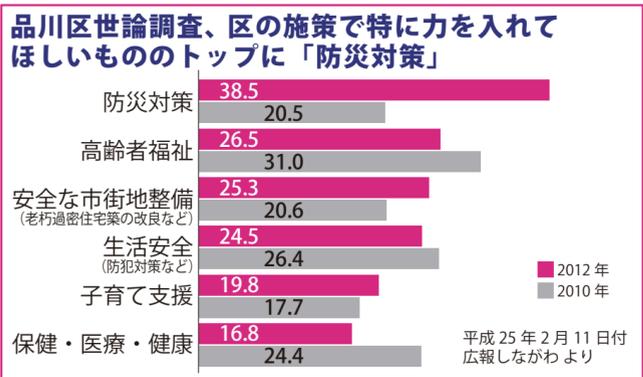
◆ それ以来、伊藤こういち都議会議員は「都内のどこでも、誰でも一目で分かる共通のヘルプカードを普及させるべきであり、標準様式を策定せよ」との提案を都議会でも何度も繰り返してききました。回答は厳しいものでしたが、あきらめずに粘り強く推進してきました。



命を守る！しながわ防災プラン

【主な内容】

- [1] インフラの耐震化対策！**
 - 社会インフラの緊急総点検の実施
 - 学校など（避難場所）の非構造部材耐震強化一〇〇％へ
- [2] 木密地域対策！**
 - 耐火・耐震化改修への助成
 - 消火栓・排水栓を使用した「スタンドパイプ」で初期消火・飲料水確保
- [3] 津波・高潮対策！**
 - 簡易水道消火装置の設置
 - 津波避難ビルの認定促進
 - 津波・高潮・洪水に関する正確な情報提供体制の整備
- [4] 避難所の拡大、機能強化！**
 - 民間との協定で避難所を設置
 - 妊産婦・乳児避難所を確保
 - ペットと避難できる避難所も確保
- [5] 女性の視点を生かした防災対策！**
- [6] 防災教育の充実！**
 - 女性や子育て世帯に配慮した生活用品の備蓄を充実
 - 女性専用避難施設の確保や相談窓口の設置
- [7] 要援護者・帰宅困難者対策を強化！**
 - 高齢者・障がい者の視点に立った防災対策
 - 帰宅困難者対策



ひとりの声に耳をかたむけ 都を動かした「ヘルプカード」

ヘルプカードはコミュニケーションに困難のある障がい者が携帯し、災害時の緊急連絡先や周囲に支援してほしい内容が記載されているものです。

◆ 三年前、伊藤こういち都議会議員（総支部長）は自閉症障がいの子どもの母親から、我が子のために作成した手製のヘルプカードを見せて頂き、要望を受けました。

◆ それ以来、伊藤こういち都議会議員は「都内のどこでも、誰でも一目で分かる共通のヘルプカードを普及させるべきであり、標準様式を策定せよ」との提案を都議会でも何度も繰り返してききました。回答は厳しいものでしたが、あきらめずに粘り強く推進してきました。

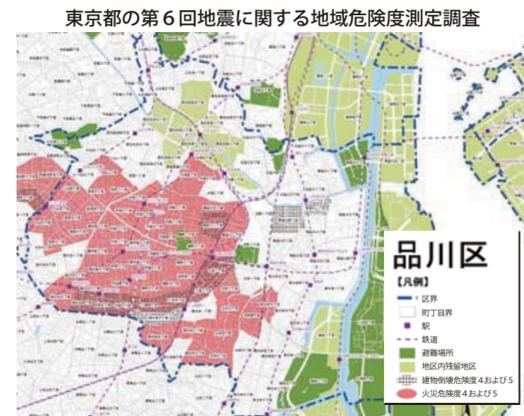
伊藤こういち都議会議員（公明党品川）に聞く 「命を守る！」 しながわ防災プラン

伊藤こういちプロフィール
昭和36年4月2日、千葉県生まれ。51歳。品川区立浜川小学校、鈴ヶ森中学校、都立南高校、関東短期大学卒業。19年間にわたり児童センターに勤務。指導員、副館長として青少年の健全育成にたずさわる。元・中延児童センター副館長。都議2期目。公明党都本部労働局長。東京都議会厚生委員、文教委員会理事、総務委員会理事を歴任。現在、経済・港湾委員会理事。
品川区西大井在住。妻と一男三女の6人家族。ホームページには右のQRコードからアクセスできます。
<http://www.koichi-ito.net/>

首都直下地震が発生した場合、区内では、九六〇〇人の命が失われると想定されています。

品川区は、津波・高潮のおそれのある東京湾と隣接した沿岸地域、また、火災危険度が高い木造住宅密集地域を有しています。

伊藤こういち都議会議員は「震災が発生しても、一人の犠牲者も出さない品川、そして東京を築いていきたい！」との強い思いで「命を守る！しながわ防災プラン」を策定し、実現に全力を挙げています！



【火災危険度ランク4～5の地域】
荏原2～7丁目、大井2～5、7丁目、大崎3～4丁目、小山2、4～6丁目、戸越1～6丁目、中延1～6丁目、西大井2～3、5丁目、西品川1～3丁目、西中延1～3丁目、旗の台2～5丁目、東大井6丁目、東中延1～2丁目、平塚1～3丁目、二葉1～4丁目、豊町1～6丁目

▲東京都の調査では、火災の発生による延焼の危険性を示す火災危険度（ランク1～ランク5）について、品川区の130町丁目のうち58町丁目が危険度の高いランク4もしくはランク5に位置付けられている



Q なぜ今「命を守る！防災対策」なのでしょう？

A 私の防災への強い思いの原点は、平成七年の阪神・淡路大震災にあります。実家が被災した後輩と共に翌朝、現地へ飛び、想像を絶する震災の悲惨な状況を目の当たりにしました。残念ながら両親は助かりませんでした。当時の政府の対応の遅さに、腹の底から思ったことは「政治とは第一に人の命を守るのだ！」この思いです。

これが、私を防災に突き動かす原動力となっています。

後輩の「地震がくる前に、五秒でも十秒でも前に両親に知らせてやれば助かったかもしれない」との言葉が忘れられず、その思いを何としても実現しようと、議員になってすぐに「緊急地震速報システム」の設置を何度も訴え、全都立学校、都立病院、都営地下鉄などへの導入を推進しました。

「どんな災害が起ころうとも一人の犠牲者も出さない」との強い決意で、「現場」での経験を活かした「命を守る！しながわ防災プラン」を全力で推進してまいります！

Q 道路や橋などの社会インフラはいざというとき安全ですか？学校の耐震化は進んでいますか？

A 老朽化した社会インフラに対し、品川区の防災設備視察で「スタンドパイプ」を操作する伊藤こういち

Q 燃え広がらない対策は？

A 木造密集地域は火災で多くの建物が焼失すると聞きました。

Q 沿岸部では、やっぱり津波の被害が心配です。すぐに避難できるのでしょうか？

A 沿岸部では、やっぱり津波の発生時に、高い建物に緊急一時避難ができるよう「津波避難ビル」の協定・指定を促進し、二次災害から命を守ります！

Q 消火栓・排水栓を使用した「スタンドパイプ」での初期消火に加え、さらに簡易水道消火装置（街かど消火栓）を設置して、身近な水道水を用いたの初期消火体制を強化します！

Q 建物に焼失すると聞きました。燃え広がらない対策は？

A 木造密集地域は火災で多くの建物が焼失すると聞きました。

Q 女性が妊婦、小さいお子さんは、避難所で肩身のせまい思いをしませんか？

A 「妊産婦・乳児専用避難所」の設置や、不足しがちな女性用下着や生活用品、粉ミルクや哺乳瓶など、女性や子育て世帯に配慮した十分な備蓄を促進します。また女性専用のトイレや更衣室の設置などプライバシーを確保し、女性・子どもの人権を守ります！

Q 高齢者や障がいのある方は、災害時に対応を後回しにされてしまわないのでしょうか？

A 高齢者や障がい者の中で、災害時に一人で避難することが困難な「災害時要援護者」を地域で支援するために、「誰が「どこに」避難させるかを具体的に定める「個別計画」の策定を推進します。また、障がい者の支援内容などを記載した「ヘルプカード」を普及促進します！

お役立ち情報 ～様々な手段で災害情報の入手を！～

- ☆品川区ホームページ：<http://www.city.shinagawa.tokyo.jp/> トップページに災害情報が表示されます。
- ☆品川区メールマガジン（※事前登録が必要）
普段は区内のイベント情報の配信、災害時は緊急情報が送信されます。登録は品川区ホームページ、もしくは右のQRコードから→
- ☆品川区ツイッター：（※事前登録が必要）
普段は区内のイベント情報の配信、災害時は緊急情報が送信されます。東日本大震災の混乱時、ツイッターは比較的、受信しやすかったと言われています。登録は品川区ホームページ、もしくは右のQRコードから→